

地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業の実施（実績報告）

i 連携している地元産業界等の組織名称

公益財団法人 キープ協会

連携先の公益財団法人キープ協会は、Kiyosato Educational Experiment Project の頭文字 KEEP が由来。創立者ポール・ラッシュ博士が掲げた「人類への奉仕」の4つの理念「食料」「保健」「信仰」「青年への希望」に「環境教育」「国際協力」を加えた6つのテーマをもとに事業展開している。

ii 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標

キープ協会と本学は、以下の目的の達成のため、包括的連携に関する協定を締結している。

- ・ 自然の保護・活用など環境教育に関すること
- ・ 「食と健康」に関する研究・教育に関すること
- ・ 地域の特性を生かした農業の振興、地産地消の推進に関すること

現在課題として捉えているのは、乳製品の製造販売が減少傾向にあることである。この課題解決に向けて、次の目標を設定している。

- ・ キープ協会が製造・販売している有機 JAS 規格のジャージーミルクの全国的な普及

この課題への取組みは、地元酪農業の活性化にもつながると考えている。

iii ii の課題解決に向けて実施する取組みの内容

上述の目標を達成するため、次の2つの取組みを実施している。

- ① 有機 JAS 規格のジャージーミルクに含まれる新規生理活性成分の生化学的・栄養学的研究
乳汁中に含まれる新規生理活性ペプチド・アペリンに、体脂肪の蓄積を抑える作用があることが報告されている。このアペリンが一般市販牛乳よりもジャージーミルクに多く含まれることを確認し、さらに、乳飲によるアペリンの摂取による体脂肪蓄積の抑制効果があることを検証する。
- ② 有機 JAS 規格のジャージーミルクを用いたオリジナルレシピの開発

この取組みは、2017（平成29）年度から継続的に実施している。2017（平成29）年度に開発したレシピ「ジャージーミルクらあめん」は、当該年度の牛乳料理コンクール関東大会において最優秀賞を獲得し、各種レストランでメニューとして提供された。2018（平成30）年度はレシピの開発をさらにすすめ、「ジャージーミルクレシピ集」を作成した。2019（令和元）年度には、全国的な普及を目指し、全国各地から来場がある「八ヶ岳カンティフェア（キープ協会と清里・八ヶ岳南麓の収穫祭）」（主催：北杜市／（一社）北杜市観光協会／NPO 法人ポール・ラッシュの会／（公財）キープ協会／ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～実行委員会）で、「ジャージーミルクらあめん」の限定販売を実施した。

本学とキープ協会は毎年度末に連携協議会を実施し、当該年度の成果を共有している。連携協議会には、キープ協会からは理事、本連携事業担当者等が、本学からは本連携事業責任者及び本学事務局長、取組みに参加した学生等が参加している。

連携協議会では、当該年度の成果について評価し、次年度の課題・目標を明確にしている。